

節約型社会に向けて変わりつつある中国で、 環境経営の実現に取り組んでいます。

経済発展とともに、環境意識が急速に高まる中国。リコーチャイナは環境経営の実現に向けて、社員だけでなく、お客様や代理店に対しても環境教育を実践しています。

●リコーチャイナの環境スローガン
「私たちの中国、私たちの地球環境を守るために」の入ったエコバッグ

●環境啓発ハンドブック
(左から)
・全社員向け
・お客様/新入社員/一般市民向け
・マネージャー/顧客接点向け



●複写機の
リサイクル材を
使ったコースター

環境経営の実現に向けて、 社員の環境教育からスタート。

中国の販売統括会社リコーチャイナ (RCN) は、2004年に社員向けの環境教育を開始しました。環境経営で重要なのは、一人ひとりの社員が自分の仕事を環境視点から見直すことであり、それによって全員参加の環境経営が可能になります。2005年からは、省エネ・省資源などの具体的な活動を実施しています。さらに販売代理店向けの環境教育も展開し、環境経営の環を拡げてきました。

国家的な環境意識の高まりの中、 お客様の環境負荷削減ニーズに対応。

現在、中国では、環境規制の強化など政府主導の環境保全の動きが活発化し、オフィス製品の環境負荷削減へのお客様ニーズが高まっています。RCNでは、環境啓発ツールを利用して省エネ製品の提案や、使用済み製品の回収・リサイクルを効率よく行っています。例えば営業部門においては、環境経営を解説する小冊子、環境スローガン入りのエコバッグ、回収済みトナーカートリッジをリサイクルしたコースターなどを使ってお客様に省エネや回収・リサイクルの仕組みなどをプレゼンテーションしています。

Voice ① 社内における環境教育の推進

環境経営推進担当者の声

**環境教育によって、
環境保全が実務につながる事が重要。**

リコーチャイナ(RCN)では、環境保全活動を推進するためには、まず社員の啓発が重要であると考え、資源・汚染など中国の環境問題の現状について教育することから着手しました。そして、社員の核となるキーパーソン35人を選出し、CEPT(China Environment Project Team)を立ち上げ、オフィスの省エネやごみの分別といった、一人ひとりの行動変革へと着実につなげていきました。また、このメンバーが中心となって、2006年1月からEMS構築とISO14001取得に向けた活動を開始しています。



リコーチャイナ 社会環境部 (左から)
社会環境部長 環境経営推進課 環境経営推進課 環境経営推進課 課長
田中 光男 袁 雯 何 健 藤野 年喜

CEPT 社員の声

**自分の行動が変わり、社内が変わり、
地域にも活動が広がりつつある。**

北京にある華北支社のCEPTメンバーとして、環境方針・環境目標、ISO14001、グリーン調達などの教育を受けました。自分自身、以前は省エネや省資源についてあまり意識がありませんでしたが、自部署の社員に教育する立場になってみると、社内で省エネを徹底することは非常に大変だと感じました。それでもトップの方針発表や朝礼などで繰り返し環境保全の重要性が強調されると、社員一人ひとりの環境に対する意識が徐々に変化し、今では、必要最小限の範囲だけ電気をつけるなど、省エネを心がけることが当たり前になりました。また、自治体とともに地域社会の環境意識向上のためのイベントも開催しました。自分ひとりの力は小さくても、多くの人が参加することで大きな力になっていくことを願っています。



リコーチャイナ 華北支社 (左から)
人事総務部 人事総務部
潮田 健一郎 劉 馨

Voice ② 販売代理店の環境意識向上への取り組み

RCNマーケティング担当者の声

**環境とビジネスの深い関わりを説き、
販売代理店の意識と行動の改革をサポート。**

RCNは、2008年3月、販売代理店との年間契約書に「環境項目」を盛り込みました。販売代理店の皆様に、環境とビジネスが深い関係にあることを認識してもらい、規制に従うだけでなく、先手で環境経営に取り組んでいただきたいと考えたからです。環境を意識して販売をするだけでなく、ビジネスの基本に置いてもらうために、年間契約書に環境項目を盛り込み、理解してもらうことが重要でした。環境項目は、「環境教育の受講」「リコー製品の環境性能のお客様への紹介」「使用済みマシン・消耗品の回収」の3つです。販売代理店の方々にRCNの環境教育を受講していただき、お客様にリコー製品の環境保全効果をよりわかりやすく伝え、それによって販売・回収・リサイクルの仕組みをより活発に回していきたいと考えています。



リコーチャイナ
販売部長 玉野 豊

販売代理店の声

**環境教育で学んだことを、
自分自身の業務に落とし込んでいく。**

2007年1月から現在までに、環境ラベル、グリーンマーケティング、回収・リサイクルなど4回の環境教育を受けました。環境保全は重要な問題であることはわかっていましたが、私たち代理店まで環境教育の対象にして具体的にどうすればよいかを示してくれたのは、RCNだけでした。おかげで、私自身も、どのように経営や業務の中に環境を落とし込めばよいかわかってきました。特に外資系や政府系のお客様は環境意識が高く、環境視点での提案によって、商談が成功するケースも増えています。私たちは、トナーボトルに「回収できます」というシールを貼って、ボトルがきちんと回収・リサイクルされる製品であることを示すとともに、回収されたボトルがどのようにリサイクルされるのかについても説明しています。



深圳市普天達升公設備
代表取締役社長 宋 國華 様